

# 賀茂郡遺族会

## 乃美尾村招魂社由来書

元乃美尾村在郷軍人分会長 実井守人

昭和二十年八月十五日大東亜戦争終結ノ聖断遂ニ下リ至仁至慈ノ大詔ヲ拝ス、斯クシテ今次ノ戦ハ敵側ノ申シ入レヲ受諾スルノ止ムナキニ至ル、日支事変以來数多クノ戦没者ヲ出シ事既ニ茲ニ至ル、皇國ノ同胞誰カ号泣嗚咽セザルモノアラン、茲ニ於テ本村在郷軍人会ハ戦陣ニ散リ戦禍ニ倒レシ諸士ノ靈ヲ祀ルコトヲ種々思案シタルモ資金ヲ有セザル分会デアリ其ノ上進駐軍司令部ノ厳シキ制限等アリテ事ハ容易ニ運ビ難シ、時ニ賀茂海軍病院ニ於テ同院関係ノ戦死者三十三柱ヲ祀ルタメ社殿ノ建立ヲ計画セラレ既ニ名工谷岡為助氏宅ニ於テ大工仕事モ完了シアリタル処終戦トナリ賀茂海軍病院ノ存在モ出来ナクナリ從ツテ社殿ノ建立モ中止セラレタルコトヲ聞キ谷岡氏ニツキ之ヲ確メ即刻海軍病院ニ行キ係官ト会谈シ建立中止ヲ確メタルニ依リ改メテ之ヲ本村在郷軍人会エ讓與方ヲ懇請シタル処海軍病院戦死ノ三十三柱ヲ合祀スルコトヲ條件トシテ社殿ノ資材一切ヲ無償ニテ讓リ受ケルコトガ決定シタ、ソコデ九月中旬ヨリ谷岡氏ノ指図ニテ会員僅カ四、五名ガ作業ニ奉仕シ同年十月中旬木ノ香モ新ラシキ立派ナ社殿ノ完成ヲ見ルニ至ル、

社殿ノ敷地及建立ニ関シテハ門前神社宮司並ニ宮總代ノ事前ニ協議ヲ經テ之ヲ認メラレタル上建立シタルモノニシテ其ノ后ノ維持管理祭礼等

門前神社ト同様ニシテ頂クコトヲモ承諾ヲ得タルモノナリ

昭和二十年十月二十日門前神社ノ例祭ノ佳辰ヲ選ビ御遺族並ニ村当局海軍病院諸官村内有志各位ノ参列ヲ得テ元在郷軍人会（乃美尾在郷軍人会ハ命令ニヨリ全年九月二十六日解散セリ）ノ主催ニテ乃美尾出身四柱（当日迄戦死公報受理ノ方）賀茂海軍病院関係三十三柱ノ創祀祭典ヲ執行セリ、爾來戦死戦没者ノ公報ヲ受理シタル方々ハ門前神社例祭ノ時合祀サレ今日ニ至ル尚他町村ヨリ転住サレタ方ニシテ御遺族ノ希望ニ依リ之ヲ合祀スルコトモ出来現ニ合祀シアリ、右ハ本神社ノ由来ヲ後世ニ伝ウル為ニ二十九年ヲ経タ今往時ヲ偲ビ謹ミテ之ヲ記ス。

社殿ニ奉納シアル戦没者名簿ハ当時乃美尾村役場ニ於テ公報ヲ受理シタル都度記載シタル原本ニシテ諸士ノ殉國ヲ称ウル万世不滅ノ好鑑タルベシ

右由来以下ハ佛崎宮司ノ同意ヲ得テ記録シタルコトヲ附記ス。

昭和四十九年十月

# 小生の体験

賀茂郡青壮年部員 岡本義美

昭和二十年二月八日、父・芳松は四十二才で中国で戦死しました。同年の四月に小生は小学校へ入学し、姉は二年生、妹は四才、弟二才の四人姉弟で母は三十二才でありました。農業収入だけの生計では生活は非常に苦しく母は土木仕事に精を出していましたが、小生が中学一年の時に病気で三ヶ月床に伏したため、姉が無理な農作業をして中三半ばで結核にかかり入院し弱り目にたたり目で生活は言語で表現出来ない程苦しく、小生は高校入学をあきらめ、大工の弟子入りをしました。日給は安く家の手助けにはならず、二年間で諦め、大阪の工務店を広告で知り母親に話したところ母は反対し、この反対も聞かず大阪に行き面接したところ、面接者が広島出身の方で運良く就職する事が出来又、日給も製図を見、読むことが出来た為に二千円の収入で、田舎の棟梁の稼ぎの四倍位いで感激しました。

早速母に半月分を仕送りし半分を生活費と貯金をして来ました。小生は夜間高校入学の目的が有り夜業も嫌うことなく頑張った為、三年間で学費も貯めたし、又、姉もお陰で退院がかない母からの手紙で田舎に帰って来るよう連絡を受けたので、昭和三十二年十二月に古里に帰ることを決心しました。

二十三才で県立呉工夜間に入学が叶い、四年間は広町の設計所に就職し、卒業後三年間約束の為設計所でお礼働きをし、第二の目的であった二級建築士受験資格取得の為建築関係仕事に就職し、昭和五十四年に待

望していた受験資格が出来ました。小生にも運が廻って来た喜びは一入のものでした。次は第三の目的ですが小作から自作の夢に三十数年かかりやっとの事で六十九アールの自作農家になることが出来得ましたことは長い苦勞が実り大きな喜びと成りました。

この間は母親と親類と地区の皆様の温かい支援に加えて亡き父の加護があつたらこそであり亡き父の御霊に深く感謝し遺児として遺族会の後継者になる為に忍耐と努力と愛情でがんばって行く覚悟でございます。終りになりましたが遺族会の皆様何時までもいつまでも健康で同じ思いをしてきた同志です。一日でも長く楽しい人生をお送り頂きますことを心より祈り申し上げます。